

イノシシから大切な農作物を守りましょう！

イノシシの被害は一年中ありますが、これから冬にかけてエサを求めるイノシシが民家の近くに姿を現す機会が多くなります。次の事例を参考に、イノシシ対策について考えてみましょう。

ちょっと待った！それって「食べて良いエサ？悪いエサ？」

畑からの帰り道、自宅の近くでイノシシに遭遇した夫妻のお話です。

妻：お父ちゃん、あれ、あそこにイノシシがいる！

夫：おー、なんか食ってんなあ。

妻：落ちてる柿を食ってるみたいだね。

夫：あそこで食ってんじゃあ、うちの畑にはこねえな。

妻：そうだねえ。

と話をしながら、夫妻はそのまま帰宅しました。しかし、数日後には夫妻の所有する畑にもイノシシが現れ、農作物が食べられてしまいました。



Q なぜ、イノシシは民家の近くに現れたのでしょうか？

A. 人間がエサを与えてしまっているからです。

イノシシにとって、美味しく栄養価の高い農作物や果樹は最高の食べ物です。「畑に捨ててあるクズ野菜や、落ちてる柿等をイノシシが食べているうちは田んぼが荒らされないから大丈夫」と安易に考えるのは間違いで、この行為はイノシシを餌付けしていることと同じです。

つまり、民家の近くで何かを食べているイノシシを見過ごすということは、「そこで食べてよい。人間は何もしない。安全」と教えていることと同じことになります。

イノシシは食べて良いエサと食べてはいけないエサの区別がつかみません。捨ててある野菜や落ちてる柿があったとしても、近くに美味しそうな農作物があればそちらを食べてしまいます。

Q イノシシの被害を防ぐにはどうしたらよいですか？

A. みんなでイノシシを近づけない環境をつくりましょう！

①まず、「みんなで勉強」しましょう！

イノシシの習性を学び、なにが餌付けなのか、なにが人馴れなのかをみんなで学び、地域全体で知識を共有しましょう。

②イノシシが近づかない環境をつくる！

餌付け、人馴れの要因を取り除くことで、野生動物を民家や畑に近づけないようにしましょう。イノシシに「今まで簡単に食べられたのに、集落に行っても何も食べられない。」ということを覚えさせましょう。

すぐにできるイノシシ対策の例

- 畑や山に農作物を捨てず、きちんと処分しましょう。収穫されないままの柿や栗など、放任果樹の見直しも行いましょう。
 - 山際の草刈りを行い、山と農地の境界をはっきりさせましょう。
 - 耕作放棄地の草刈りを行い、農地の近くにイノシシが潜める場所を無くしましょう。
 - 稲刈りが済んだら、田んぼを耕しましょう。
- ※冬季は野山に草がなくなるので、収穫後の稲の株から生えた芽（ひこばえ）がイノシシにとって貴重なエサになります。

写真は、常陸太田市のブドウ園にて撮影された動画の1コマです。イノシシが後ろ足で立ち上がり、樹高約1.1～1.2mのブドウを食べているところです。イノシシは、運動能力が優れているため、容易に柵を越えて農地に侵入し、農産物を食べてしまいます。

町では、社団法人茨城県猟友会城里支部の協力を得て、毎年有害鳥獣捕獲を行っています。イノシシによる農作物への被害防止には、有害鳥獣捕獲とあわせてイノシシを近づけない環境づくりや、防護柵等の防除対策が必要です。

画像提供：常陸太田農業改良普及センター



問合せ 産業振興課 ☎029-288-3111 (内線384)